

日光のオーバーツーリズム問題の解消に向けた提案

ー 京都との比較から考える ー

帝京大学 経済学部 五艘ゼミ・2年

石間雄樹、赤羽汰一、石井一輝、板谷翔空、市原ののか・岩山晴輝、海老原翔、大塚匠
大山時生、後藤憂磨・高津戸宙、照沼忠之、丸田祐実、八木澤峻平、吉成航大

【概要】

アフターコロナの観光地は国内外旅行者が戻り急回復を遂げるが、オーバーツーリズムが心配される。日光市は以前から交通渋滞問題があったが、今後はコロナ禍で変化した旅行ニーズから新たなオーバーツーリズム問題が起こると想定される。そこで地域住民へのインタビューから日光の新たなオーバーツーリズム問題を整理し解消方法を提案する。

【栃木を元気にするには】

日光市は世界文化遺産も有する栃木を代表する観光地であり、その観光資源は魅力的に保たれ持続的観光地として運営されるべきである。オーバーツーリズムは生活者の住環境に悪影響を与えることもあり早急に解決すべき問題だ。そこでオーバーツーリズムが大きな課題となっている京都など他地域を参考に、日光のオーバーツーリズム解消策を提案する。

1. 日光の観光の現況の把握、オーバーツーリズム指標の整理

日光市の観光の現況を把握するため、ニュース記事や各種報告書を整理した上で、15名全員で視察調査を行いオーバーツーリズム発生地点を確認した（2023年6月17日）。視察調査は日光駅から二社一寺・中禅寺湖・戦場ヶ原・湯元温泉とした。東照宮を中心とする二社一寺周辺は国内外の一般旅行者に加え修学旅行も訪れ階段の昇降がやや危険に感じるほどの混雑だった。一方、中禅寺湖・戦場ヶ原・湯元温泉と進むに連れ観光客は減少し湯元温泉は閑散としていた。全体的に路線バス内の混雑はひどく、上り・下りとも多数の乗客が着席できずいろは坂の急カーブを耐えながら立っていた。日光市のオーバーツーリズムはこれまで把握されていた道路渋滞のみでなく、観光資源や公共交通の混雑という問題も引き起こしていることがわかった。オーバーツーリズムについては一定の研究蓄積があるが日本総研（2019）はオーバーツーリズムの典型的なパターンを明確にしている。本プロジェクトでは同報告をもとに、日光市の現状に即した形でオーバーツーリズムの指標を設定することとした。

2. 京都市および他地域におけるオーバーツーリズムの取り組み

京都における現地調査からオーバーツーリズムの実態とその取り組みを確認した（2023年9月11-13日）。京都市でも日光と同様に、清水寺など海外旅行者に認知度の高い寺社仏閣に観光客が集中する一方、認知度の低い資源は閑散としていた。京都駅周辺と公共交通が極めて混雑しており、バスは外国人旅行者の多さから乗車に時間がかかり、それに対しクレームする住民を見かけるなど、これらの風景が日常になっていると想定された。京

都市は、観光客への手ぶら観光やバス内でのマナー啓発、住民の多い地域での静穏へのお願い、多様な場所での多言語対応と対策を講じる。だが増加する観光客に苦慮している状況は続き、市は国に「オーバーツーリズム対策に関する京都市からの緊急要望」を提出しており（2023年9月15日）、オーバーツーリズムの解決がいかに難しいかを示した。

3. 日光におけるオーバーツーリズムの現況

学識者（1名）・市役所や関係団体（2名）・観光事業者（1名）・住民（1名）の方へ講義やインタビューを依頼し、日光市におけるオーバーツーリズムの状況を把握し整理した（表－1）。結果、日光市のオーバーツーリズムの論点は3点に集約された。その特徴は、かつては中心地の渋滞が認識の中心であったのに対し、コロナ後には渋滞による生活のしづらさ、公共公共の混雑、観光客の迷惑行為という点まで認識されたことである。

論点1【混雑】 増加する観光客に対しバスの本数が限られ車内が混雑しがちだが、コロナ後の人材不足で増便できない

論点2【渋滞】 中心部や交差点の渋滞という観光空間の問題が、住民が混雑時に買い物に行けない生活上の問題を誘引

論点3【迷惑行為】 コロナ後に外国人旅行者のレンタカー利用が増加、私有駐車場での車中泊や湯元温泉のバーベキューなど迷惑行為が散見

表－1 日光市のオーバーツーリズムの整理

エリア	大項目	小項目	オーバーツーリズムの内容
日光駅～二社一寺	1.空間	1-1.渋滞	・車道の渋滞(主に8-11月土日祝日)
	3.生活	3-3.迷惑行為	・駐車場の無断使用(車中泊)
	3.生活	3-4.プライバシー侵害	・私有地への侵入
	3.生活	3-2.物価	・物価の高騰
	1.空間	1-4.騒音	・夜間の騒音(外で飲酒)
	1.空間	1-3.ゴミ	・ごみの散乱
	3.生活	3-3.迷惑行為	・路上喫煙
中禅寺湖周辺	1.空間	1-1.渋滞	・信号(T字路)での車道の渋滞
	1.空間	1-2.混雑	・バスの混雑・少ない本数
	4.文化	4-2.ホスピタリティ低下	・ホスピタリティの低下
	1.空間	1-1.渋滞	・渋滞時に住民が買物に行けない
戦場ヶ原・湯元温泉周辺	1.空間	1-2.混雑	・バスの混雑・少ない本数
	3.生活	3-3.迷惑行為	・犬連れ客のフンの増加
	3.生活	3-3.迷惑行為	・マナー違反(駐車場でBBQ)
	2.地域資源	2-1.自然の破壊	・国立公園の木道を降りて歩行・撮影

(五艘ゼミ2年がインタビューをもとに作成)

4. 日光市のオーバーツーリズム解消に向けた提案

日光市のオーバーツーリズムの論点に基づき、図－1のように短期的・長期的な解消策を提案する。日光市のオーバーツーリズム問題は今後さらに新たな問題を生み出す可能性もあり、常に新しい問題を認識し検討を重ねることが必要で、地域一帯となってこの問題に向き合うことが重要である。それが日光を持続的な観光地として維持することに繋がると考える。

論点	短期的解消法	長期的解消法
公共交通の混雑	●オフピーク利用の推進 ●繁閑の利用料金変動	●公共交通人材の育成 ●労働環境の向上 ●サイクリング道の整備
車道の渋滞	●休憩場所増加 ●誘導員増加 ●混雑時は住民へ移動販売	●回遊式交差点の導入 ●生活者道路の設置 ●観光税・入場料の設置
観光客の迷惑行為	●マナー向上のキャンペーン ●注意書きや案内版の増加	●観光ガイドによる啓発 ●マナー違反者への罰金等

図－1 日光市のオーバーツーリズムの解消の提案

(五艘ゼミ2年・作成)

謝辞：インタビュー調査や講義に多大なご協力をいただきました日光観光協会様、日光商工会議所様、日光市役所様、日本両生類研究所様、勇庵様には、心より感謝申し上げます。

参考文献：

日本総研（2019）：求められる観光公害への対応ー持続可能な観光立国に向けて、JRI レビュー67号